

## 平成27年度 学校評価総括

### 1 職員自己評価

職員自己評価は、2月に実施、3月に職員会議で結果を報告し、各部署に検討・改善をお願いした。評価項目・実践目標について、本年度、行事内容が改まり実態に合わなくなった項目を1点変更（「ガイダンス合宿」の語をキャリア教育に関する項目から消去）した。長年改善が必要とされていた「学校ホームページ等、家庭や地域への情報発信」の項目は、過去2年徐々に評価が上がっていた。ホームページが刷新された今年は、昨年よりもさらに0.2ポイント上げた。このことは保護者アンケートの結果にもあらわれており、評議委員会においても、学校の情報発信が高い志望率につながっているとの評価をいただいた。

一方、「校内外研修の実施や研修成果の共有」という項目で昨年大きく上がっていた評価が、一昨年並に落ち、研修意識を高めることが課題として引き継がれた。ここ数年低い評価が続いており、昨年度の総括でも話題に上がった「行事の精選、内容充実」については、耐震工事1年目の今年、困難な状況の中で様々な行事の工夫が試みられたが、その分教員の負担感が軽減しなかったためか、昨年並みの自己評価にとどまった。来年度は、本年度とも例年とも異なる展開が予想されるため、この評価を少なくとも維持する行事の精選が必要と考えられる。また、生徒指導の面では、昨年評価が回復した「規律ある学校生活」に関する項目で再び評価が下がり、通学中の自転車マナーに関する苦情の多さを反映する厳しい自己評価となった。これについては今年度、姫路警察の方に来校いただき講演という形で指導いただいた。

### 2 学校関係者評価

3月の第三回学校評議委員会に出席いただいた5名（6名のうち1名は欠席）に学校関係者評価をお願いし、自己評価結果、生徒授業アンケート、各年次生活実態調査、保護者アンケート、各部・年次主任からの報告などを参考として評価いただいた。おおむね良好な評価をいただき、自由意見欄にも、本校が地域にとってより身近な存在になってきていること、生徒が生き生きと活動していることなどを評価していただいた。

評議委員会における意見交換の場で、「国際化」に関する取り組みが目立っていないという旨の指摘をいただいた。地域に開かれた学校づくりが好調の中で、もう一つの学校として取り組むべき課題をいただいた。

### 3 学校評価に関する課題

(1) 生徒授業評価が6月実施となり、授業へのフィードバックが以前よりは早い時期に可能になっていたが、データ処理にまとまった時間が必要であり、職員への結果が生徒夏季休業の後半となった。夏季休業前、もしくはその前半に職員に示せれば、夏季休業の期間を有効に活用できると考えられたため、この時期を目処に処理の迅速化をつとめたい。

(2) 学校関係者評価シートを評議委員に示す時期を早めにできれば、委員の方に評価を念頭において年間を通して学校の取り組みを観察していただける。早期の提出に努めるとともに、各回の評議委員会でシートの内容を確認できるようにしたい。